

#### (4) 愛知県立一宮聳学校の実践

##### ア 研究の経過

月日	活動内容
5月18日	中学部の職員に向けた通信「学習評価プラクティス」の定期発行開始
6月17日～	授業マネジメントシートを活用した実践 (以降、中学部1年生及び3年生の国語科を中心に実践を継続)
夏季休業中	授業マネジメントシートの活用事例を「学習評価プラクティス」の中で紹介、希望する職員に授業マネジメントシートのデータを頒布
9月21日	中学部1年生国語科における研究授業及び協議 顧問・総合教育センター所員による授業参観及び協議

##### イ 実践

9月に実施した、中学部1年生国語科「大人になれなかった弟たちに……」における実践を中心に紹介する。戦時下において、幼い命が失われる悲劇が描かれた物語文であり、「描写を基に登場人物の心情を考える」ことを主眼とした。まず授業マネジメントシートを作成した(資料5)。「主体的に学習に取り組む態度」は、「知識・技能」や「思考・判断・表現」に関わっていく中で見られる態度である。そのため、各学習場面で、生徒に期待する姿を具体的に記述するよう留意した。

##### 【資料5 授業マネジメントシート(一部抜粋)】

時	目標	評価(知技)	評価(思判表)	評価(主)
1	時代背景を確認する。	戦時下の事物・事象を表す言葉について、語彙を豊かにしている。		書籍を参照し、目次や索引を確認しながら、知りたい内容を調べようとしている。
2	「弟」のミルクを盗み飲みした「僕」の心情を考える。		時代背景や文中の表現を基に、「僕」の心情を考えている(ロイロノートに入力)。	自分の取組を振り返り、自分にとっての課題を明らかにしようとしている。
3	家族を守る「母」に対する「僕」の心情を考える。		文脈や文中の表現を基に、「僕」の心情を考えている(ロイロノートに入力)。	自分の取組を振り返り、自分にとっての課題を明らかにしようとしている。
4	疎開先に向かう「僕」の心情を考える。		情景描写を基に、「僕」の心情を考えている(ロイロノートに入力)	言葉を取捨選択しながら、粘り強く振り返りシートを書こうとしている。
5	「弟」を納棺したときの「母」の心情を考える。		文脈と描写を基に、「母」の心情を考えている(ロイロノートに入力)。	言葉を取捨選択しながら、粘り強く振り返りシートを書こうとしている。
6	題名に込められた思いを読み取り、単元を振り返る。		キーワードに着目して題名の意味を考え、発表している。	考えが深まったことやもっと知りたいことを振り返りシートに書こうとしている。

次に、振り返りシートを作成した。一部を資料6に示す。表の左側にロイロノートで生徒の入力した内容を貼付し、右側に振り返りを記入する形式とした。振り返りの仕方そのものを繰り返し指導することや、生徒が自分の思考過程を追うことをねらいとした。

授業を進める中で、形成的評価を基に授業改善を図った。例えば、ローマ字入力に時間を要する生徒がいたため、次時よりフリック入力を指導することで記入時間を短縮できた。

研究授業においては、「弟」を納棺した「母」の心情として「守りきれたような気持ち」「（「弟」は）よくがんばった」といった肯定的な記述が目立ち、母の無念を捉えきれていなかった。それまで「僕」の視点で読み進めていたため、「母」の立場での読み取りが不十分だったことが原因として考えられた。

研究授業後の協議では、「評価の場面として授業のヤマ場を設定すること」の重要性が議論された。本実践では、ヤマ場が「思考・判断・表現」の評価の場面となる。そこに至るまでに、前提となる知識及び技能を獲得できるような授業計画が必要である。つまり、これまで多大な犠牲を払ってまで家族を守ろうとしてきた「母」に寄り添う読み取りが不可欠であった。また、「思考・判断・表現」の評価の場としてヤマ場を設定しているので、資料5のように評価の材料を執拗に集める必要はないと言える。

また、「振り返りで限定的な問いかけをすること」についても意見が交わされた。指導者による問いかけと、生徒から得られた振り返りを資料7に示す。

【資料6 毎時間の振り返り】

日付	今日の授業の振り返り
9/10	<p>目標 ミルク盗み犯した母の心情を考えた。</p> <p>僕はミルクを盗んでしまった、弟のヒロユキの大切なミルクだったから飲まない方がよかったかな……</p>
9/13	<p>目標 母の心情を考えた。</p> <p>お母さんは子供たちの事を守ってくれて僕はうれしい気持ちになるな……</p>
9/16	<p>目標 母の心情を考えた。</p> <p>僕はこれからの生活がワクワクして楽しみな……いろいろな食べ物がありそうだな……</p>
9/17	<p>目標 母の心情を考えた。</p> <p>ヒロユキは幸せだった。母と兄とお医者さん、看護師さんにみとられて死んだのだから。</p>

【資料7 指導者による問いかけと生徒から得られた振り返り】

	指導者の問いかけ	生徒の振り返り
研究協議前までの実践	話し合いをして分かったことや、これからがんばりたいことを書きましょう。	〇〇さんの思ったことも聞いて、あーなるほどそれもあるなと思いました。
研究協議後の実践	誰の、どのような意見を聞いて、自分の考えがどのように変わったのかを書きましょう。	〇〇さんの意見を聞いて、母はがまん強いんだなと思いました。（中略）子どもたちを守るためにずっとがまんしていたんだなと思いました。

ウ 成果と課題

実践から、学習評価における重点を確認できた（資料8）。また、今回の実践で得られた知見、及び石井・鈴木（2021）を参照し、「指導と評価の一体化」を目指す授業を資料5にまとめた。

このような授業を実現していく上で、授業マネジメントシートは非常に有用であると言える。

今後の課題は、振り返りシートの評価における活用方法を見極めることである。振り返りシートは、自己評価の力を育む教材の一つである。同時に、「思考・判断・表現」または「主体的に学習に取り組む態度」を見取るための手段ともなる。振り返りシートを評価に活用する場合に必要な条件として、効果的な問いかけ方を検討する必要がある。

【資料8 学習評価におけるポイント】

- 1 評価の場面として、単元のヤマ場を設定すること
- 2 振り返りでは、限定的な問いかけを設定すること
- 3 主体的に学習に取り組む態度を、知識及び技能、または思考力・判断力・表現力の獲得に向かう姿として具体的にイメージすること

【資料9 指導と評価の一体化を目指す授業】

- 学習目標を基に、授業のヤマ場を設定する
- ヤマ場を中心に、単元の構想を練る
- 生徒にゴールを伝える
- 形成的評価を基に、授業を改善する
- ヤマ場の姿や作成物を基に、総括的評価をする
- 振り返りを通し、学びの実感を促す